

東京大学大学院教育学研究科案内

(2016)

この『案内』は、当研究科に入学して専門的な勉強と本格的な研究を行うことを希望している方のために、研究科全体の構成と各コースの特色や教育研究分野などを示してあります。さらに詳細な情報を知りたい場合には、各コース事務室にお尋ねください。

●もくじ

大学院の機構・大学院の構成	3
---------------	---

総合教育科学専攻

基礎教育学コース	4
比較教育社会学コース	5
生涯学習基盤経営コース	6
大学経営・政策コース	7
教育心理学コース	8
臨床心理学コース	9
身体教育学コース	10

学校教育高度化専攻

教職開発コース	11
教育内容開発コース	12
学校開発政策コース	13
学校教育高度化センター	14
バリアフリー教育開発研究センター	14
発達保育実践政策学センター	14
教育学部附属中等教育学校	14
心理教育相談室	14
海洋教育促進研究室	14

■大学院の機構

大学院教育学研究科（修士課程、博士課程）は、総合教育科学専攻と学校教育高度化専攻の2つの専攻より成り、総合教育科学専攻は7コースで組織され、学校教育高度化専攻は3コースで組織されています。

■大学院の構成

専攻	教育研究分野
●総合教育科学専攻	
基礎教育学コース	教育哲学、教育人間学、教育史、教育臨床学
比較教育社会学コース	教育社会学、高等教育論、比較教育システム論、比較教育学
生涯学習基盤経営コース	生涯学習論、社会教育学、図書館情報学
大学経営・政策コース	大学経営論、大学政策論、比較大学論
教育心理学コース	教授・学習心理学、発達心理学、教育認知科学、教育情報科学
臨床心理学コース	臨床心理システム論、臨床心理カリキュラム論、発達臨床心理学
身体教育学コース	身体教育科学、教育生理学、発達脳科学、健康教育学
●学校教育高度化専攻	
教職開発コース	授業研究、カリキュラム研究
教育内容開発コース	数学・科学教育、言語教育、人文社会教育、芸術教育、身体教育
学校開発政策コース	教育政策研究、学校教育経営

■大学院教育学研究科の特色

本研究科は、人間と教育のかかわり、社会における教育の構造と機能、心身の発達と教育などの分野において卓越した分析・研究を行う能力を形成するとともに、教育の実践に高度の専門的知見と能力をもって貢献する人材を養成することを目的としています。

2016（平成28）年度は145名（修士97名、博士48名）の大学院学生を新たに迎え、留学生も9名入学しました。他大学からの入学者も半数ほどを占めます。創設以来の修了者約2700名が全国の大学・研究所などで活躍中です。ゼミ、特殊研究、フィールド調査などの形態で活発な研究と指導が行われております。

基礎教育学コース

【スタッフの研究分野】

■教授 かな もり おさむ 金森 修 (教育哲学)

一種の人間論の構築を目指しています。人間は生物であるにもかかわらず、単なる自然的存在とはいええないあり方で存在しています。その意味での「自然からの乖離」の様態を多様な場面で具体的に考えることを目標としています。

■教授 た なか さと し 田中智志 (教育臨床学)

専門は、教育概念史と教育臨床学です。教育概念史は、教育の営みを枠づける基本的な概念を歴史的に把握する試みです。教育臨床学は、生きるとはどういうことかと問いつつ、よりよい教育の営みを模索する試みです。教育概念史としては、これまでに人間形成概念、社会性概念をとりあげてきました。現在は近代以前にさかのぼり、完全性概念に取り組んでいます。教育臨床学としては、関係性、倫理感覚、共存存在を中心にあれこれ模索しています。

■教授 こ だま しげ お 小玉重夫 (教育人間学)

教育における人間と政治、社会との関係を思想研究によって問い直すことを研究テーマとしています。特に、ふだん自明のものとしてうけいれられている「教育」や「学校」を、歴史的・構造的な視点から相対化し、そのうえで、教育改革の筋道を追究していくことが、当面の研究課題です。具体的には、教育の公共性に関する思想研究、公共性の担い手を育てるシティズンシップ（市民性）教育、政治的リテラシーの問題などに、関心をもっています。

■教授 こ くに よし ひろ 小国喜弘 (教育史)

学校教育に関する言説・制度・実践などを歴史的に対象化することを目的とし、日本教育史の研究に取り組んできました。特に1945年を画期とする戦前から戦後にかけての教育方法の特徴をナショナリズムとの関連に焦点をあてて読み解くことを課題としています。学校教育の変革期にある今、戦後の学校教育の理論的背景となってきた「戦後教育学」を批判的に検討し、新たな教育学の可能性を模索したいと考えています。

■准教授 かた やま かつ しげ 片山勝茂 (教育人間学)

対立する複数の価値観が並存しながらも、自由で平等な市民が協力して維持する、正義に適った安定した民主的社会はいかにして可能か。ジョン・ロールズが残したこの問いに教育学の立場からアプローチするべく、「教育と人間と社会のあり方」を考察しています。特に関心を持っている教育のフィールドは、多文化社会イギリスと日本におけるシティズンシップ（市民性）教育と道徳教育です。

【特色】

基礎教育学コースは、名前のとおり、教育研究の最も基礎的な部分を担当する専修／コースであり、広く「人文的」と呼ばれるような方法で教育という対象にアプローチすることをねらいとしています。

【2016(平成28)年度 講義題目と担当教員】

講義題目	担当教員	
	職名	氏名
知識論・学問論	教授	金森 修
教育思想演習	教授	小玉重夫
教育人間学基本演習	准教授	片山勝茂
西洋教育史演習Ⅰ	客員教授	川本隆史
日本教育史演習Ⅰ	教授	小国喜弘
教育臨床学基本演習	教授	田中智志
知識論・学問論演習	教授	金森 修
教育政治学演習	教授	小玉重夫
教育人間学特殊研究	准教授	片山勝茂
西洋教育史演習Ⅱ	客員教授	川本隆史
日本教育史演習Ⅱ	教授	小国喜弘
教育臨床学演習	教授	田中智志
基礎教育学総合演習	教授	金森 修
	教授	田中智志
	教授	小玉重夫
	准教授	片山勝茂
知識論・学問論論文指導	教授	金森 修
教育思想論文指導	教授	小玉重夫
教育人間学論文指導	准教授	片山勝茂
西洋教育史論文指導	客員教授	川本隆史
日本教育史論文指導	教授	小国喜弘
教育臨床学論文指導	教授	田中智志

比較教育社会学コース

【スタッフの研究分野】

■教授 恒吉僚子 (比較教育学)

子どものしつけや教育、社会化過程を、それを取り巻く社会・文化的コンテキストの中でとらえ、国際比較、異文化間比較を行っています。「多文化化」「グローバル化」等、マクロな社会や、国境を越えた動きと、教室内のミクロな日常性をつなぐ作業を、比較視点から模索することに関心があります。国際比較から見た日本の子どものしつけや教育の特徴等にも関心があります。

■教授 本田由紀 (教育社会学)

主に、家族と教育、教育と仕事、仕事と家族という、異なる社会領域間の関係について調査研究をしています。90年代以降の日本社会では、この3つの関係には矛盾が露わになっています。たとえば家庭教育に対する圧力や格差の高まり、「学校から職業への移行」の機能不全、仕事の不安定化による家族形成の困難化などです。それらをどう立て直していくか、行政や草の根的な運動がいかに関わってゆくべきかを考えています。

■教授 橋本鉱市 (高等教育論)

高等教育に関わる諸事象を、主に歴史社会的なアプローチによって研究しています。学問領域・内容の制度化プロセス、プロフェッションとしての大学教授職、学位制度・教育プログラム、高等教育の制度・組織的分化、専門職養成の政策過程など分析対象は多岐にわたりますが、激変する現代の高等教育をめぐる制度・組織・政策を、近代以降の大きな歴史的な流れの中で相対化する地道な作業が必要だと考えています。

■教授 中村高康 (比較教育システム論)

大学入試や高校生の進路選択など、「教育と選抜」に関わる諸現象の計量的・比較社会的検討が主要な研究テーマです。近年では関心を広げて、社会階層と教育制度の関連、進路選択と地域性の問題、メリトクラシー（能力主義）に関する理論的考察なども手がけています。量的な研究方法を使うことが多いですが、最近では質的な方法もできるだけ取り入れた総合的なアプローチ（混合研究法）がとても重要だと感じています。

■准教授 仁平典宏 (教育社会学)

「教育的なもの」をその外部において捉えることを課題としています。例えば、社会保障制度は既存の給付型から教育・訓練型へと変化しています。「市民」概念も、教育を通じて「なる」ものへと転換しつつあります。「主体の絶えざるバージョンアップ」を要請する〈教育〉のコードが、隣接するシステムに忍び込み変質させていく——その有り様と帰結を社会的に追尾することで、近年の社会変化の諸相を解明していきたいと思えます。

【特色】

比較教育社会学コースでは、社会学を中心に、歴史学、経済学、文化人類学などに基づいて、「社会現象、文化現象としての教育」を、国際比較や異文化理解を含めた多角的な視点から、総合的に考察できる学生の育成をめざしています。

【2016(平成28)年度 講義題目と担当教員】

講義題目	担当教員	
	職名	氏名
質的方法論研究Ⅰ	教授	恒吉僚子
現代日本社会における教育・仕事・家族	教授	本田由紀
教育社会学の研究課題	教授	本田由紀
高等教育の社会学Ⅰ	教授	橋本鉱市
高等教育の社会学Ⅱ	教授	橋本鉱市
教育社会学方法論研究	准教授	三輪 哲
教育と選抜の諸問題	教授	中村高康
福祉国家・市民社会の社会学Ⅰ	准教授	仁平典宏
福祉国家・市民社会の社会学Ⅱ	准教授	仁平典宏
教育社会の計量分析	教授	佐藤 香
社会調査法	非常勤講師	石田 浩
教育社会学における階層研究の理論的及び方法的諸問題	非常勤講師	近藤博之
比較教育学論文指導	教授	恒吉僚子
教育社会学論文指導	教授	本田由紀
高等教育論論文指導	教授	橋本鉱市
比較教育システム論論文指導	教授	中村高康
教育社会学論文指導	准教授	仁平典宏
計量教育社会学論文指導	教授	佐藤 香
計量教育社会学論文指導	准教授	三輪 哲

生涯学習基盤経営コース

【スタッフの研究分野】

■教授 影浦 峽 (図書館情報学)

メディア／言語の分布構造を分析し、近代の図書館が実現しようとしてきた理念とはどのようなものだったのか、それはどのようなメディアと言語の配置を前提としていて、その前提はこれからどのように変わっていくのか、といった大きな問題を考えつつ、メディアや言語の理論からリテラシーの実践・工学的応用まで、いろいろやります。オンライン翻訳者支援システム「みんなの翻訳」も公開・運用しています。
<http://trans-aid.jp/>にぜひどうぞ。

■教授 牧野 篤 (生涯学習論)

教育や学習の営みを通して人間と社会を考える

人が生活を営み、成長していく過程に現われる様々な事象を通して、社会のあり方を考え、人が幸せに暮らすために何ができるのかを考えることに関心があります。曖昧な人間と社会を対象とするが故に曖昧な学問である社会教育・生涯学習は、その曖昧さが魅力です。そこから、フィールドは子どもの成長の社会的な意味、少子高齢社会における学び、東アジア地域のコミュニティー教育、そしてまちづくりなど、無限に広がっていきます。

■准教授 李 正連 (社会教育学)

社会教育とは何か、という問いにすぐ答えられる人は、研究者の中でもそれほど多くないと思います。社会教育はよく「ごった煮」といわれているように、その対象及び教育（活動）の内容や方法、場所なども非常に多様で、広いです。では、このような「社会教育」という言葉はいつから使われ始めたのか。その用語の起源をはじめ、近代社会教育の成立と展開について研究をしています。そして、最近では韓国の社会教育・生涯学習の政策や教育福祉問題、草の根教育・学習運動などにも視野を広げて検討しています。

■准教授 新藤浩伸 (生涯学習論)

人間の生涯にわたる成長・発達における多様な学びの意味を、表現・文化活動、芸術活動を中心に研究しています。さらにそのための環境をどう支援し創造していくか、イギリスなどとの比較も視野に入れつつ、日本の公共ホールや博物館などの文化施設、教育・文化政策、文化産業の歴史に即して調査しています。人が暮らしの中で楽しみ、学び、変わり続けることで創造されていく社会や文化の形を、フィールドの中で協働的に、また歴史的にも探求したいと考えています。

【特色】

人が学ぶ営みは、学校教育で完結するものではありません。しかも、今や社会が構造的な変容を来すことで、学校を中心に教育や学びを考えることが困難になっているといっても過言ではありません。社会は、既に「教育」ではなく「学習」をキーワードとし、「学習」によって規定されるものへと変化しているといってもよいでしょう。

このコースでは、学校教育の終了後あるいは学校教育の外で人が営む様々な活動を、「学習」の視点からとらえ、生涯にわたって人が営む学習活動とそれを支える組織・制度・環境・技術などの「基盤」について研究しています。

コースは、主に社会教育や生涯学習の活動を研究対象とし、また学習の視点から社会をとらえる社会教育学・生涯学習論研究室と、図書館などの活動や人々の「知」の創造と利用形態を扱う図書館情報学研究室という、二つの研究室から構成されています。生涯学習センターや公民館での人々の学びだけでなく、NPOやNGO、地域活動、子どもたちの放課後の活動などを含むより広い意味での学習や教育の実践、さらにはサービス活動、図書館や博物館だけではなく、Webやメディアを含む環境としての情報メディア基盤とその構成、それを支える情報検索や言語情報処理などの技術まで、理論的・基礎的な研究から実践的研究までを、二つの研究室が協力しながら進めています。

また、このコースの特色は、研究のための実践フィールドを常に持っていることです。各地の自治体だけでなく、学校や民間団体、そして企業などとも連携しつつ、人が学ぶということの本質を追究しています。

【2016(平成28)年度 講義題目と担当教員】

講義題目	担当教員	
	職名	氏名
生涯学習論基本研究Ⅳ	教授	牧野 篤
	准教授	李 正連
	准教授	新藤浩伸
生涯学習論特殊研究Ⅳ	教授	牧野 篤
	准教授	李 正連
	准教授	新藤浩伸
図書館情報学理論研究	客員教授	吉田右子
図書館情報学研究方法論	教授	影浦 峽
図書館情報学総合研究	教授	影浦 峽
成人教育研究の理論と方法	非常勤講師	高橋 満
プログラム評価論	非常勤講師	安田節之
デジタルドキュメント論	非常勤講師	阿辺川武
北欧の生涯学習と図書館	客員教授	吉田右子
情報媒体構造論	教授	影浦 峽
生涯学習論論文指導	教授	牧野 篤
	准教授	李 正連
	准教授	新藤浩伸
図書館情報学論文指導	教授	影浦 峽
図書館情報学論文指導	客員教授	吉田右子

大学経営・政策コース

【スタッフの研究分野】

■教授 ^{やまもと きよし} 山本 清 (大学経営論)

大学の財務及び会計が「少子化時代の生き残り競争」として最近注目されていますが、それは個々の大学が本来の教育研究活動を行う上で基盤となる活動だからです。財務・会計の機能面からいえば、意思決定の改善やアカウントビリティの向上及び利害調整への貢献という点で企業会計や政府会計と共通点を有しますが、対象では大学特有な活動側面（教育と研究の結合生産や教職員と学生の中期的関係）を考慮する必要があります。そこで、機能及び活動の双方から大学の財務・会計を研究しています。これらに関連して公的部門のガバナンスや経営・会計についても国際比較研究を実施しています。

■教授 ^{おがた なおゆき} 小方直幸 (大学政策論)

ユニバーサル化を迎えた大学は今、様々な課題に直面しています。とりわけ大学教育のあり方は、高等教育政策はもちろん、個別大学の経営上も大きな関心事となり、質の保証や教育改善のシステムを構築するための各種の取り組みが実施されています。高等教育の拡大と長引く景気の低迷が同時進行する中、大学教育は社会や職業とどのような接点を持てばよいのか、その接点を確保するために大学の教育プログラムや教員には何が求められ、それを恒常的に実現していくにはいかなる方策が必要であるのか、理念レベルの議論だけでなく個々の大学で取り組むことが可能な実践レベルの議論も含めた研究を行っています。

■准教授 ^{ふくどめ ひでと} 福留東土 (比較大学論)

「大学とは何か？」いろいろな定義が可能ですが、私は、大学の最大の存在意義は、個人が自由に思考し、自分の意思で知的な関心と能力を高めることができる点にあると考えます。世の中にこうしたことをできる場所が他にあるのでしょうか？ないとすれば大学を守り育てていく意義は明らかです。現代は大学にとって危機の時代です。しかし、これまでも大学の自由は無条件に与えられてきたわけではありません。今の状況を歴史的・世界的視野から見つめたいと思います。大学の自由を大切に享受する姿勢からきっと新たな大学論が産まれてくるでしょう。大学に関わり、大学について考えようとする人たちと「大学とは何か」を追究したいと思えます。

■准教授 ^{わかくさ あきこ} 両角亜希子 (大学経営論)

知識社会の進展にともなって大学の社会的な役割が大きくなっています。同時に18歳人口が減少する中で、大学の経営は重要な問題として高い関心を集め、大学の経営やそれに関わる政策はどのように変化しなければならないのかが問われています。研究者は、社会科学の視点から一定の枠組みの元で基礎的な研究をつみあげるのももちろんのこと、大学経営の実践者と深く協働し、ともにアイデアを出していくことが求められていると考えています。そこで、とくに大学の意思決定の様式や財務という観点から、事例研究を重ねることにより、実践的な問題に答える論理的な基盤の構築をめざして実証的な研究に取り組んでいます。

【特色】

本コースは、大学経営・政策に関わる先端的かつ実践的な教育と研究を推進しています。大学・高等教育機関の管理者、政策担当者、職員、学卒者を対象に、大学の経営、高等教育政策について理論的・実践的な教育を行い、大学・高等教育研究という新しい分野の研究者、将来のリーダーを育成する大学院です。実務者・社会人の学習環境に配慮し、土曜日を中心に講義・演習を行うカリキュラムになっています。

- 修士課程**：大学経営・政策に関わる基本的な理論を幅広く学ぶとともに、大学の現実の事例を取り上げたケーススタディを実施して実践的能力を身に付けます。これらの内容を元に修士論文に取り組むことで、広い視野と専門的能力および実践的な判断力をもつ幹部職員やスタッフを養成するとともに、この分野の研究者を目指す人に基礎的な教育を行います。
- 博士課程**：修士課程を修了し、幹部職員やシニアスタッフとして経験を持つ方を対象に、大学経営の場で指導的な役割を果たし得る高度な研究力・実践力を養成します。また、この分野の研究者、および大学経営・政策に関わる広い領域でのリーダーとなる人材を養成します。
- 研究活動**：国内外の大学経営や高等教育政策に関する理論的・実証的な研究を蓄積させるとともに、実践との対話に基づいた新しい研究スタイルを確立します。また、国内の大学経営研究者のネットワークをつくり、欧米・アジアにおける同様の教育研究プログラムとの国際的な交流拠点になります。

【2016(平成28)年度 講義題目と担当教員】

講義題目	担当教員	
	職名	氏名
高等教育政策論	教授	小方直幸
	非常勤講師	合田哲雄
	非常勤講師	松坂浩史
高等教育論	教授	小方直幸
大学財務会計論	教授	山本 清
大学経営論	准教授	両角亜希子
比較大学論	准教授	福留東土
大学経営政策演習(1)	教授	小方直幸
	准教授	両角亜希子
大学経営政策研究	教授	山本 清
大学経営政策各論(3)	准教授	福留東土
	非常勤講師	徳永 保
	非常勤講師	松本麻人
大学経営政策各論(4)	教授	川口大司
	准教授	田中隆一
	客員准教授	濱中淳子
	非常勤講師	島 一則
高等教育調査の方法と解析(1)	非常勤講師	大多和直樹
高等教育調査の方法と解析(2)	教授	小林雅之
大学財務会計特論	教授	山本 清
大学経営政策論文指導	教授	山本 清
	教授	小方直幸
	准教授	福留東土
	准教授	両角亜希子
	客員准教授	濱中淳子
比較大学経営論(2)	准教授	福留東土
大学経営事例研究(2)	准教授	両角亜希子

教育心理学コース

【スタッフの研究分野】

■教授 佐々木 正人 (教育認知科学)

知識の成立に、身体、物、場所がどのように関わるのかを研究しています。子どもやアスリート、表現者、職人の動きの「技」をフィールドで観察し、分析します。そこから発達や教育をサポートする環境のデザインにヒントを得たいと考えています。ヒトの動きや建築に興味のある方、自身のスポーツやアート経験の意味を理解したい皆さんを歓迎します。

■教授 市川 伸一 (教授・学習心理学)

学習、理解、推論、動機づけといった問題を軸に、認知理論と教育実践をつなぐことがテーマです。実験や調査による基礎研究とともに、授業改善や社会教育の実践に直接関わりつつ、「教育をつくりながら考える教育心理学」を標榜しています。自らの「学ぶ経験」、「教える経験」を心理学研究として生かしてみたいという学生の方を歓迎します。

■教授 南風原 朝和 (教育情報科学)

個についての理解を深める上で、集団データから得られる統計的指標がどのような意味をもちうるのかといった、心理学研究と統計的方法との関係についての方法論的な問題に興味があります。また、テストの統計的分析にも関心をもっており、入学試験のような実際の測定・評価における様々な問題に対して、実証的に迫っていきたくと思っています。

■教授 岡田 猛 (教育認知科学)

「アイデアが生まれて、それが形になっていく過程」に興味があり、芸術家の創造活動について研究しています。「芸術家はどのように作品を作っていくのか」「独創的なアイデアはどのように生まれるのか」といった問いについて、認知科学的な解明を目指しています。その際、フィールドワークに基づいて「創造の現場で起こっている認知活動」についての仮説を生成し、それを心理学実験で検証するといったマルチメソッドを用いて研究を進めています。

■教授 遠藤 利彦 (発達心理学)

人生早期に子どもと養育者との間に形成されるアタッチメントがいかなる要因によって規定され、それはまたその後の子どもの（特に社会情緒的側面の）発達の道筋にどのように影響するのかについて関心を持っています。さらに、人の様々な感情がどのような過程を経て生じてくるのか、そしてそれは子どもの心身の発達全般にいかなる意味を有するのかについても、進化論あるいは文化論の視点を交えながら、考察しています。

■教授 針生 悦子 (発達心理学)

生まれたときには本当に無力に見えた子どももやがて、ことばを話し、人の気持を思いやった行動がとれ、新しく直面した問題にもうまいやり方で対処できるようになっていきます。この当たり前に見える変化がどのようにして起こっているかを知りたいと考えています。特に言語の獲得とからめて子どもの世界に対する見方はどのように構造化されていくのかといったことに興味があります。

【特色】

専門分野は、教授・学習心理学、発達心理学、教育認知科学、教育情報科学の4領域にわたります。教授・学習心理学では、学校や園における学習を、発達心理学では、感情や認知の発達を、教育認知科学では、学校に限定されない現実場面における学習や認知活動を、教育情報科学では、学習をはじめとした人間のふるまいの測定・解析方法をあつかいます。これら幅広い視野と専門的手法をそなえた研究者の育成をめざしています。

【2016(平成28)年度 講義題目と担当教員】

講義題目	担当教員	
	職名	氏名
認知と教育	教授	市川伸一
	助教	植阪友理
心理統計学概論	教授	南風原朝和
感情と進化・文化	教授	遠藤利彦
ことばと認知の発達 I	教授	針生悦子
アフォーダンス理論の基礎	教授	佐々木正人
創造的認知の心理学 I	教授	岡田 猛
心理統計学の諸問題	教授	南風原朝和
教授・学習過程	教授	市川伸一
	助教	植阪友理
関係性と子どもの社会情緒的発達	教授	遠藤利彦
ことばと認知の発達 II	教授	針生悦子
アフォーダンス研究の実際	教授	佐々木正人
創造的認知の心理学 II	教授	岡田 猛
統計的因果推論と介入デザイン	非常勤講師	星野崇宏
調査研究における尺度と質問の諸問題	非常勤講師	平井洋子
マルチレベルデータの分析	非常勤講師	杉澤武俊
構造方程式モデリング	非常勤講師	尾崎幸謙
Communication Strategies for Education Researchers	非常勤講師	エマニュエル・マナロ
学習と発達に対する社会歴史的アプローチ	非常勤講師	石黒広昭
教育心理学論文指導	教授	秋田喜代美
教育心理学論文指導	教授	市川伸一
教育心理学論文指導	教授	南風原朝和
教育心理学論文指導	教授	佐々木正人
教育心理学論文指導	教授	岡田 猛
教育心理学論文指導	教授	遠藤利彦
教育心理学論文指導	教授	針生悦子
教育心理学論文指導	客員准教授	岡田謙介
教育心理学論文指導	准教授	野澤祥子

臨床心理学コース

【スタッフの研究分野】

■教授 しも やま はる ひこ 下山晴彦 (発達臨床心理学)

特定の心理療法の学派や技法を超えて、総合的に臨床心理学の技能と教育方法を開発することをテーマとし、次の4領域を中心に実践、研究、教育をしています。1) 発達段階に適した援助方法(最近は子どもの認知行動療法)の開発。2) 個人療法とシステム療法を統合する「つなぎモデル」の開発。3) 国際比較に基づき、日本の文化や制度に適した教育や訓練の方法の開発。4) 物語論の観点から臨床心理学の体系化。

■教授 のう ち まさ ひろ 能智正博 (臨床心理カリキュラム論)

語り(ナラティブ)は個人の「内面」の表現であると同時に、個人の世界を作り上げる実践です。臨床実践とは個人の語りへの再構築を支援することであり、コミュニティの語りに対する働きかけでもあります。私は、障害や慢性疾患をもつ方々などの語りやライフストーリーの特徴とその生成変化、生涯発達のなかでの自己語りの変化や主体価値の発達過程などをテーマに研究を進めています。また、語りを捉える質的研究の方法論・技法論の整理と普及にも努力しています。

■准教授 たか ぼし み ほ 高橋美保 (臨床心理システム論)

個人に起こる心理的問題は、個人的要因のみに起因するのではなく、個人が生きる社会的要因の影響も受けています。また、個人に起こる心理的な問題が社会の問題を浮き彫りにしていることもあります。このような視点から、個人の生きにくさを、コミュニティや社会といった視点から理解し、個人・組織・社会を援助する具体的な方法論と理論を構築するための研究や実践を行っています。特に、就労、復職、失業など働くことにまつわるメンタルヘルズに注目し、現代社会の中で個人が自身のライフキャリアを構築し、生き抜くことを支援するための研究や実践を行っています。

■講師 いし まる けい いち ろう 石丸径一郎 (臨床心理システム論)

性や性別は人間のアイデンティティや幸福感の重要な中核をなすものであり、母胎内から老年期までずっと生活とともにある影響力の大きなテーマです。私は、人間の性の健康に関するテーマ全般に関心があり、現在は特に、性同一性障害や同性愛などLGBTに関する領域で研究と臨床実践をおこなっています。また、性被害や自然災害などのトラウマ体験による心理的影響についてのテーマにも取り組んでいます。

【特色】

臨床心理学コースは、「心の時代」とも称される21世紀にふさわしい社会システムを構築するために必要な臨床心理学的な知的基盤を提供し、臨床心理士やスクール・カウンセラー等の高度専門職業人および研究者・指導者の育成を目的とします。

なお、本コースは財団法人日本臨床心理士資格認定協会により第1種指定大学院の認定を受けています。

【2016(平成28)年度 講義題目と担当教員】

講義題目	担当教員	
	職名	氏名
臨床心理実習Ⅰ	教授	下山晴彦
	准教授	高橋美保
臨床心理実習Ⅱ	教授	下山晴彦
	准教授	高橋美保
臨床心理学特論Ⅱ	准教授	高橋美保
臨床心理面接特論Ⅱ	教授	能智正博
臨床心理学特論Ⅰ	教授	下山晴彦
臨床心理査定演習Ⅰ	教授	下山晴彦
	講師	石丸径一郎
臨床心理基礎実習Ⅰ	教授	下山晴彦
	准教授	高橋美保
臨床心理面接特論Ⅰ	准教授	高橋美保
臨床心理査定演習Ⅱ	未定	未定
臨床心理基礎実習Ⅱ	准教授	高橋美保
臨床心理学研究法Ⅰ	教授	能智正博
	講師	石丸径一郎
メンタルヘルスマネジメント基礎	教授	下山晴彦
	准教授	高橋美保
精神医学特論	客員教授	原田誠一
障害学演習	教授	福島 智
老年期の心理臨床Ⅰ	非常勤講師	松澤広和
老年期の心理臨床Ⅱ	非常勤講師	松澤広和
心理療法特論： スーパービジョンⅠ	非常勤講師	藤川 麗
心理療法特論： スーパービジョンⅡ	非常勤講師	藤川 麗
臨床心理学論文指導	准教授	高橋美保
臨床心理学論文指導	講師	石丸径一郎
臨床心理学論文指導	客員教授	原田誠一
臨床心理学論文指導	教授	能智正博
臨床心理学論文指導	客員教授	黒田美保
臨床心理学論文指導	教授	下山晴彦
臨床心理学論文指導	講師	星加良司
障害学論文指導	教授	福島 智
Theories of Psychological Intervention	非常勤講師	ジャック マーンズ
Mood Regulation and Coping	非常勤講師	ジャック マーンズ

身体教育学コース

【スタッフの研究分野】

■教授 ^{やまもと よしはる} **山本義春** (教育生理学)

生体情報や健康関連情報のデータ分析が専門です。研究面では、教育や医療のフィールドを念頭に、データを如何に取得するか、どのように分析するか、結果を如何に解釈するか、健康リスクの評価や予防介入にどのように活かすか、といった問題について、生理測定、信号処理、モデリング、統計解析などの立場から考究しています。扱うデータは、標準的な生理測定データに加え、行動・社会医学的情報まで多岐にわたります。教育面でも、多様な興味関心を持つ学生や研究者に、情報化社会に相応しい専門的かつ総合的な「分析力」を身につけてもらうことを目指しています。

■教授 ^{ささき つかさ} **佐々木 司** (健康教育学)

人間の「こころと体」の成長・発達に影響する遺伝的・環境的諸要因について、精神科医としての経験も活かして研究活動を進めたいと考えています。ちなみに、人の成長・発達には心理社会的要因とともに生物学的要因の役割も非常に大きいのですが、これを総合的に理解して社会で活躍できる人材を育成していきたいと思えます。研究の具体的課題としては、24時間社会化に伴う睡眠・覚醒リズムの変化とその成長・発達・健康維持への影響、胎生期の環境やゲノムのvariationが成長・発達に及ぼす影響等を当面扱っていききたいと思えます。また、高等教育の現場をとりまく様々な問題が学生・教職員の心身の健康にどのような影響を与えているかについても研究を進める予定です。

■教授 ^{たがけんたろう} **多賀厳太郎** (発達脳科学)

ヒトの運動、知覚、認知が、脳と身体と環境との動的相互作用を通じて生成される原理を探っています。特に、新生児や乳児の発達過程に焦点を当て、生得性、複雑なシステムの発展法則、環境への適応性、自発的な情報生成機構などを明らかにしたいと考えています。行動計測、心理実験、脳のイメージング、非線形動力学モデリングと計算機シミュレーションなどを行っています。

■教授 ^{のざき たいち} **野崎大地** (身体教育学)

我々の身体運動をささえる神経系・筋骨格系は極めて冗長な特徴を有しています。例えば単一の関節を曲げ伸ばしする運動にさえ、膨大な数の脳、脊髄の神経細胞、複数の筋が関与しているのです。動作分析、(誘発)筋電図、脳波、脳磁気刺激、fMRI、ロボットアームをもちいた運動学習パラダイムなどの手法を用いて、このような冗長性のもと、ヒトの精緻な運動がどのように実現され、また獲得されていくのかを明らかにしたいと考えています。

■准教授 ^{とうこう ひまはる} **東郷史治** (教育生理学)

我々の生活習慣は身体そしてこころの健康と密接に関連します。さまざまな環境のなかで多様化しつつある心身の健康問題の背景を明らかにし、その対応策を検討するために、身体活動、睡眠、休息と疲労、概日リズム、栄養といった日常生活を構成する基盤となる事象に関する研究を実施しています。とくに、生理学、生体情報学などの手法を用いて、実験およびフィールド調査を実施し、幅広い年代でのその実態を明らかにしたいと考えています。

■准教授 ^{もり たけんじ} **森田賢治** (身体教育学)

スポーツや楽器演奏の習得において、成功や失敗の経験からいかに学ぶか、またその過程で自らをいかに動機付けるかは重要な問題です。また、スリルを楽しみたいと思うか怖いと思うか、あるいは動作を面倒に感じるか心地良さを覚えるかなどは、経験、心身の状態、そして人によっても異なります。これらの根幹にあると考えられる脳と身体における学習と情動のメカニズムを、生物学的知見に基づく数理モデリングと、行動・生理・脳機能イメージング実験等を用いて、明らかにしていきたいと考えています。

【特色】

学校、家庭、社会に存在する「身体(からだ)」に関わる様々な教育事象について、幅広く総合的・実践的な立場で教育・研究を行うのが身体教育学です。そして、身体教育学は、健全な身体形成を図り、健全な身体観とスポーツ観を育み、自分自身の「身体(からだ)を育む」ことに主体的に立ち向かい実践していく意識と行動力を育成することを目標としています。

【2016(平成28)年度 講義題目と担当教員】

講義題目	担当教員	
	職名	氏名
身体教育学の諸問題Ⅰ	教授	野崎大地
身体システム論Ⅰ	教授 准教授	山本義春 森田賢治
発達脳科学特論Ⅰ	教授	多賀厳太郎
健康教育学の諸問題Ⅰ	教授 准教授	佐々木司 東郷史治
身体教育学の諸問題Ⅱ	教授	野崎大地
身体システム論Ⅱ	教授 准教授	山本義春 森田賢治
発達脳科学特論Ⅱ	教授	多賀厳太郎
健康教育学の諸問題Ⅱ	教授 准教授	佐々木司 東郷史治
精神医学研究概論	客員准教授	栃木 衛
身体教育学論文指導	教授	野崎大地
教育生理学論文指導	教授	山本義春
発達脳科学論文指導	教授	多賀厳太郎
健康教育学論文指導	教授	佐々木司
教育生理学論文指導	准教授	東郷史治
身体教育学論文指導	准教授	森田賢治

教職開発コース

【スタッフの研究分野】

■教授 あきた きよみ 秋田喜代美 (授業研究)

学校や幼稚園・保育所という制度的保育・教育の場での、子どもと教師・保育者の学習と発達過程とその発達を支える社会文化的環境について解明することを研究テーマとしています。教授学習の分野で用いられる談話などの文化的道具に着目し、子どもたちがどのように書き言葉や教室談話を学び、それらを通して授業内容を学習していくのか、また教師は授業をどのようにデザインし実践をし省察をしているのか、そこに生み出される関係性を探究しています。

■准教授 あさ いさちこ 浅井幸子 (カリキュラム研究)

教育実践の歴史的な研究を専門としています。明治以降の小学校教育や幼稚園・保育所の保育について、教室における教師と子どもの関係や経験がどのように語られ構成され意味づけられたかということ、教師の語りやカリキュラムの編成に即して検討しています。教師のキャリア形成にも関心があり、継続的に、女性と男性の小学校の先生にライフストーリーインタビューを行っています。

■准教授 ふじ え やす ひこ 藤江康彦 (授業研究)

学校における子どもや教師の学習と発達およびそれを支える環境のあり方について、教育方法学、教育心理学、学習科学などの研究知見に学び、学校でのフィールドワークやコンサルテーションを行いながら追究しています。授業における談話空間の社会文化的構成と子どもの学習との関係性、教師の学習や熟達を支える校内研修や学校組織のあり方、幼小連携や小中連携などの校種間連携による子どもや教師の学校参加や活動、組織のあり方の変容、などに関心があります。現在は、小中一貫校の学校づくりのフィールドワークをおこなっています。

【特色】

学校教育の高度化を達成する核ともいえる、授業の開発、カリキュラムの開発および教職専門性の開発の先端的研究と実践的研究を推進し、質の高い学習環境の創出と教職の専門的資質や能力の高度化をめざします。授業研究、カリキュラム研究、教師研究の発展を推進することとおして、教師と協働して学校教育の改革を遂行するとともに大学などの高等教育機関において教師教育（現職教育を含む）を担う実践的研究者、幼児教育も含めた初等教育、中等教育段階の指導的教師を養成します。

【2016（平成28）年度 講義題目と担当教員】

講義題目	担当教員	
	職名	氏名
授業における学習研究	教授	秋田喜代美
授業研究の理論と方法	准教授	藤江康彦
カリキュラム理論の諸相：アメリカ合衆国における研究動向を中心に	客員教授	澤田 稔
教育政策と教育法	客員教授	中田康彦
保育学研究	教授	秋田喜代美
学校教育研究と談話分析	准教授	藤江康彦
教職経験の研究	准教授	浅井幸子
学習科学演習	非常勤講師	大島 純
質的研究とTEA（複線径路等至性アプローチ）	非常勤講師	佐藤達哉
学力の教育学的研究	非常勤講師	石井英真
数学教育分野の国際協力	非常勤講師	馬場卓也
吟味・評価・批評の力を育てる国語の授業づくり	非常勤講師	阿部 昇
教育行政・政策の日米比較	非常勤講師	山下晃一
子ども・家庭・福祉の政策過程分析	非常勤講師	西岡 晋
授業の事例研究	准教授	藤江康彦
教職の事例研究	准教授	浅井幸子
教科教育の心理的事例研究	教授	藤村宣之
学校教育の事例研究	准教授	北村友人
授業の实地研究	教授	秋田喜代美
教科学習の实地研究	教授	斎藤兆史
授業研究論文指導	教授	秋田喜代美
授業研究論文指導	准教授	藤江康彦
カリキュラム研究論文指導	准教授	浅井幸子
カリキュラム研究論文指導	客員教授	澤田 稔

教育内容開発コース

【スタッフの研究分野】

■教授 ^{かな もり}金森 ^{おさむ}修 (数学・科学教育)
(所属は「基礎教育学コース」)

一種の人間論の構築を目指しています。人間は生物であるにもかかわらず、単なる自然的存在とはいえないあり方で存在しています。その意味での「自然からの乖離」の様態を多様な場面で具体的に考えることを目標としています。

■教授 ^{さいとう よしゆみ}齋藤兆史 (言語教育)

日本の英語受容・学習・教育史関連資料の検証や、高度な英語力を身につけた日本人に関するケース・スタディを通じ、日本人にふさわしい英語学習・教育のあり方を研究しています。また最近では、英語教師がクラスの特性に応じて臨機応変に教授法を工夫すること、また授業において学習者に英語使用の手本を示すことが重要であるとの認識に基づき、教師教育の方法論も研究しています。

■教授 ^{ふじむらのぶゆき}藤村宣之 (数学・科学教育)

子どもが数学的概念や科学的概念(自然・社会)の理解を深めていくプロセスや、それを促進する授業のあり方に関心があります。小学生から高校生までを対象に、個別実験・面接、記述形式の調査、授業場面の発話や記述内容の分析、小・中・高の教員との実践共同研究などを行い、教育心理学の立場から研究を進めています。子どもの変化のプロセスに着目することで、教授・学習や認知発達に関する心理学研究の統合をめざしています。

■准教授 ^{きたむらゆうと}北村友人 (人文社会教育)

グローバル化時代における教育のあり方について、政治・経済・社会などとの関わりのなかから理論的および実証的に明らかにすることを目指しています。そのために、アジアの途上国を主なフィールドとした学校教育の充実に関する研究、「持続可能な開発のための教育(ESD)」に関する研究、高等教育の国際化と国際協力に関する研究などに取り組んでいます。これらの研究を通して、教育の公共性とは何であるのかという問題について、深く考えていきたいと思っています。

【特色】

学校教育の高度化を実現する教育内容の理論研究と開発研究を推進し、教育内容における高度の専門的知識と教職の専門的見識を兼ね備えた小学校・中学校・高校段階の指導的教師、および教科教育の実践的・基礎的研究や教師教育(現職教育を含む)などに関わる実践的研究者を養成します。本コースの特色は、数学・科学教育、言語教育、人文社会教育ならびに芸術教育と身体教育の諸分野の学術研究と教育の実践的研究を統合するところにあります。

【2016(平成28)年度 講義題目と担当教員】

講義題目	担当教員	
	職名	氏名
数学的・科学的思考の発達と学習過程	教授	藤村宣之
英語教授法	教授	齋藤兆史
Globalization and Education	准教授	北村友人
教育政策と教育法	客員教授	中田康彦
カリキュラム理論の諸相：アメリカ合衆国における研究動向を中心に	客員教授	澤田 稔
数学教育分野の国際協力	非常勤講師	馬場卓也
吟味・評価・批評の力を育てる国語の授業づくり	非常勤講師	阿部 昇
教育行政・政策の日米比較	非常勤講師	山下晃一
質的研究とTEA(複線径路等至性アプローチ)	非常勤講師	佐藤達哉
学力の教育学的研究	非常勤講師	石井英真
学習科学演習	非常勤講師	大島 純
子ども・家庭・福祉の政策過程分析	非常勤講師	西岡 晋
教職の事例研究	准教授	浅井幸子
学校教育の事例研究	准教授	北村友人
教科教育の心理学的事例研究	教授	藤村宣之
授業の事例研究	准教授	藤江康彦
教科学習の実地研究	教授	齋藤兆史
授業の実地研究	教授	秋田喜代美
外国語教育論文指導	教授	齋藤兆史
教育内容開発・論文指導	教授	藤村宣之
科学技術教育論文指導	教授	金森 修
授業研究論文指導	教授	秋田喜代美
芸術教育論文指導	客員教授	今井康雄
人文社会教育論文指導	准教授	北村友人

学校開発政策コース

【スタッフの研究分野】

■教授 おおもも とし ゆき 大桃敏行 (教育政策研究)

日米教育政策の比較分析、米国教育政策の歴史研究、教育行政制度改革の実態分析などを中心に作業を行ってきました。分権改革、規制改革が進むなかで、公教育の概念や仕組みも大きく変わろうとしています。この変動のなかで、教育の平等や自由、多様性をどのようにとらえ直していくのか。教育保障における国と地方、一般行政と教育行政、さらには行政機関と民間アクターとの関係をどのように設定していくのか。学校を基盤とする経営が求められるなかで、その仕組みをどのように形成し、改革を支援していくのか。そして、その改革を担う人たちの養成や資格、職能成長の制度をどのように再構成していくのか。制度変動の意味の問い直しと、新たな制度設計が課題となるなかで、それについて日米比較や歴史分析の視点を含めて検討を進めていきたいと考えています。

■教授 かつ の まさ あき 勝野正章 (学校教育経営)

分権改革と市場原理の導入が進行するなかで、従来の学校管理・運営とは異なる学校経営（ガバナンス）の諸様式が現れはじめています。学校経営研究の課題はまず、国や自治体の政策や制度に強く規定されつつもローカルな関係のなかで生成している、このような学校経営の実態と様式を分析し説明することです。そのうえでさらに学校が教育機関であることに由来する固有の経営論理を改めて析出していくこと、学校経営過程の組み換えを志向する教職員をはじめとする学校当事者とともに実践的・開発的・共同的研究を進めていくことを目指しています。さしあたって現在、次のような研究テーマに取り組んでいます。

- ・民主主義と協働の原理に基づく学校づくり
- ・学校における成果主義の受容と変容
- ・教職員の同僚性と教育専門職としての成長

■准教授 むら かみ ゆう すけ 村上祐介 (教育政策研究)

現代民主政治における教育政策・行政は高度な専門性が求められる一方で、政治家や市民による民主的統制も必要とされています。しかし、この二つの要素は両立しがたい側面があり、どのように両者の調和を図るかが今問われています。こうした問題関心の下で、上意下達の中央集権的システムであると言われてきた戦後日本の教育行政の特質を改めて検証するとともに、民主的統制と専門性の在り方が教育政策の帰結にどのような影響を及ぼすのかを、実証的な手法を用いて研究しています。

理論・方法的側面に関しては教育学・教育行政学のみならず、政治学・行政学などの社会科学諸領域から積極的に学ぶことを重視しています。教育と他の政策領域との比較の視点を交えながら、教育政策領域の特徴と独自性を明らかにしたいと考えています。

【特色】

学校教育の高度化を推進する教育政策、教育行政・財政システム、学校経営の政策的、制度的な研究開発を行うとともに、この領域の政策立案、行財政システム改革・経営・管理、政策評価等を遂行することのできる研究者と指導的な行政官（教育行政職員、学校管理職・指導主事、等）を養成します。2006（平成18）年度から従来の教育行政学研究室を改組再編し新専攻の下に新たなコースとして設置されました。研究の学際的性格もあり学内外の他研究分野・研究科との連携・協力も得て運営されています。

【2016（平成28）年度 講義題目と担当教員】

講義題目	担当教員	
	職名	氏名
教育政策基礎論	教授	大桃敏行
教育政策と教育法	客員教授	中田康彦
現代学校改革の諸問題	教授	勝野正章
カリキュラム理論の諸相：アメリカ合衆国における研究動向を中心に	客員教授	澤田 稔
吟味・評価・批評の力を育てる国語の授業づくり	非常勤講師	阿部 昇
教育政策研究方法論	准教授	村上祐介
教育行政・政策の日米比較	非常勤講師	山下晃一
学力の教育学的研究	非常勤講師	石井英真
質的研究とTEA（複線径路等至性アプローチ）	非常勤講師	佐藤達哉
数学教育分野の国際協力	非常勤講師	馬場卓也
学習科学演習	非常勤講師	大島 純
子ども・家庭・福祉の政策過程分析	非常勤講師	西岡 晋
教育政策事例研究Ⅱ	非常勤講師	貞広斎子
教育行政事例研究Ⅰ	准教授	村上祐介
学校経営実践の開発Ⅱ	教授	勝野正章
教育政策実地研究	教授	大桃敏行
教育行政実地研究	准教授	村上祐介
学校経営実地研究	教授	勝野正章
教育政策研究論文指導	教授	大桃敏行
教育行政研究論文指導	准教授	村上祐介
学校経営研究論文指導	教授	勝野正章
教育法制研究論文指導	客員教授	中田康彦

学校教育高度化センター

センター長・教授(併) のう ち まさ ひろ 能智正博 (臨床心理学コース)

【特色】

学校教育高度化センターは、2006(平成18)年度に、それまでの学校臨床総合教育研究センター(1997年度に創設)を改組して設置されました。前身である学校臨床総合教育研究センターは、教育研究の「実践性」「総合性」「連携性」を重視し、「いじめ」「不登校」「教師の研修システム」「教師のストレス」「学力問題」「学力向上の学習環境支援システム」など、学校現場のアクチュアルな問題を取りあげ、2~3年ごとのプロジェクト研究を推進してきました。

学校教育高度化センターは、学校教育高度化専攻(2006年度に新設)との協同関係を基盤としながら、全国の大学機関・教員養成機関、教育委員会、学校等との連携をはかりつつ、教職専門性の高度化、教育内容の高度化、学校開発政策の高度化を推進することを目的としています。学校教育の現実的な問題の解消を、「実践性」「総合性」「連携性」の原則にもとづく研究によって推進する伝統は、学校教育高度化センターにおいても継承されています。

バリアフリー教育開発研究センター

センター長・教授(併) の ざき だい ち 野崎大地 (身体教育学コース)

【特色】

バリアフリー教育開発研究センターは、2009年4月1日に発足し、2010年4月1日に、本研究科附属施設として全学的機構図の中に正式に位置づけられました。

「バリアフリー」とは、障がい者や高齢者にとっての「物理的バリア」の解決法を指すのみでなく、各種疾病、身体的特徴、出自、地域、言語、人種、民族、宗教、文化、国籍等を要素として生み出されるさまざまな「心のバリア」や「文化的社会的バリア」を解明してこれに積極的に取り組み、人間の多様性に対して寛容な、だれにとっても住みやすい社会のあり方を探求するものであり、各種の障壁を内包している社会の現状や人々の考え方の変革を目指すものです。

バリアフリー教育開発研究センターは、教育をバリアフリーの観点から見直すと共に、バリアフリーを教育研究の領域において推進しています。

発達保育実践政策学センター

センター長・教授(併) あさ た き よ み 秋田喜代美 (教職開発コース)

【特色】

発達保育実践政策学センターは、乳幼児の発達や保育・幼児教育の実践、そのための政策に係る研究を推進する「発達保育実践政策学」という新たな統合学術分野の確立をめざして2015(平成27)年7月1日に設立されました。子ども子育てに関わる課題は、多岐に渡っています。東京大学内の研究者はもとより、国内外の研究者や研究機関、子育てや保育・教育を実践している方々やその団体、実践のための制度に関わる国や自治体と連携し、子ども子育ての課題を協創探究し、解決の道筋を国際的に発信することを目的とする新たな研究拠点です。

教育学部附属中等教育学校

附属中等教育学校は中野キャンパスにあり、創立以来、中高一貫教育を行う中で、教育研究と教育実践の連携の場として、教育学研究科・教育学部教員と附属学校教員の共同研究の拠点として、重要な役割を担ってきました。なかでも、創立直後からの「双生児枠」選抜を設けての「双生児研究」、6年一貫教育のカリキュラムの研究、「卒業研究」を含む系統的な「総合学習」への取り組み、「協働的な深い学び」の授業実践と研究、「三者協議会」の実施などは、多くの教育関係者から注目されてきました。

平成12(2000)年度から6年間、文部科学省より研究開発学校の指定を受け、新しく制度化された中等教育学校のカリキュラム開発に取り組んだ他、今年度から4年間『「総合的な学習」と教科学習を、「市民性」「探究」「協働」の視点で見直し結びつけ、そこでの「ディープ・アクティブ・ラーニング」を可能にするカリキュラムの開発と、その指導・評価方法の研究』を研究開発課題として、再度、研究開発に取り組むこととなっています。この他にも、平成24(2012)年度に「中高一貫教育における特色ある教育に関する調査研究」、平成25(2013)年度から「多様な学習成果の評価方法に関する調査研究」、平成26(2014)年度に「言語活動の充実に関する実践研究」と「消費者教育推進のための調査研究」を、それぞれ文部科学省からの委託を受けて実施するなど、中等教育の発展に寄与できる学校づくりに取り組んでいます。

教育学研究科・教育学部との連携として、「協働的な学びを通じて深く学ぶ」いわゆる「アクティブ・ラーニング」の実践と研究のために、年間を通して研究授業・授業検討会に教育学研究科・教育学部の多くの教員が参加し、その知見と議論から多くを学びながら、附属教員は授業改善に恒常的に取り組んでいます。また2月に行われる公開研究会でも、ほぼ全ての分科会に教育学研究科・教育学部の教員がコメンテーターとして参加しています。

さらに全学の教員養成とその高度化の拠点として、教育実習オリエンテーション、教育実習、実地研究等での授業参観、教科教育授業の担当、教職実践演習授業の担当など、年間を通して、教育学研究科・教育学部と連携しながらその実施と改善に取り組んでいます。

心理教育相談室

心理的な問題への援助に携わろうとする大学院学生の実践的な研修の場として設置された、本研究科附属の相談機関です。昭和32年に開設され、昭和58年に旧文部省に公的な相談・研修機関として認可されました。臨床心理学コースの教員による幅広い指導が行われています。

この施設は、教育相談機関や精神保健相談機関、病院などで専門職として援助実践に携わる臨床心理士を目指す院生や、臨床心理学的な実践的研究者を目指す院生に開かれています。具体的には、発達障害、不登校、非行、対人関係などの心理的な問題などをかかえた子どもや成人を対象に、カウンセリング、プレイセラピー、保護者面接、コンサルテーションなどの相談活動を行っています。

臨床心理学の専門教育訓練を受けている教育学研究科の大学院生が相談員となります。相談員は、スーパーバイザーの指導を受けながら、実際の相談に当たっていきます。それ以外に、毎週、事例検討会が開かれます。

相談員の中には、修士課程修了後、相談機関などに心理職として就職する人もいますし、博士課程に進学し、外部の相談機関や病院、学校などで実践経験を積んで援助専門職としての技量を深めつつ、実践的な研究を進めている人も大勢います。

東京大学大学院教育学研究科

〒113-0033 東京都文京区本郷7丁目3番1号

電話：03-5841-3908